

各地駐車協会だより

■ 魅力溢れる観光都市 札幌

札幌駐車協会 会長 岩波 剛

寄稿の依頼を受けてあらためて過去に当協会を紹介したものを調べてみたところ、「PARKING」176号(平成18年、2006年)にまで遡った。この号の「各地区協会会長インタビュー」-第4号-で当時の遠藤象三会長(前会長、故人)が、景気動向から休日の過ごし方まで硬軟取り混ぜて答えておられました。遠藤前会長は平成20年に国土交通大臣表彰を受賞され、平成25年5月まで10年間に亘り札幌駐車協会会長として札幌における駐車業界の振興発展と会員の指導・育成にご尽力された功労者で、誌面上の軽妙洒落な受け応えからもそのお人柄が偲ばれます。

さて、それから10年以上経ち、新たな令和5年を迎えて現在の札幌のあれこれをお伝え出来れば幸いです。

▶札幌駐車協会の紹介

札幌駐車協会は、「札幌市内における駐車事業の進歩発展と会員相互の親睦を図ることを目的」として昭和42年(1967年)12月2日に設立されました。

その時の「設立趣意書」には、当時の交通事情に対する危機意識と難題解決への取り組みを以下のように記しています。

(以下、抜粋)

「当札幌市においては都市集中化の傾向著しく、ために車両は激増の一途であり六大都市並みの交通難を現出し」、「大半は駐車禁止或いは一方通行地帯となり、車両の活動制限は経済活動に大きな影響を与え」、「冬期積雪期においての交通難は本州都市の比としない」、「かかる交通問題を解決するには…(中略)…駐車場の整備が重要且つ緊急を要する」、「われわれ駐車場経営者ならびに関係者はその交通問題に寄与する」「ため札幌駐車協会の設立を企画した」

以来55年余りに亘り、駐車場の施設・サービスに関する研究やこれらを取り巻く諸問題に対する政策提言等の活動を積極的に行い、現在、正会員25社、賛助会員9社、計34社を有しています。

▶駐車場事業の現状

札幌は、明治政府が1869年(慶応2年)に開拓使を設置し、道都と定めてから開拓が本格化したいわば近代になって生まれた新しい都市です。明治4年(1871年)、世帯数211、人口624人で

創建され、ほぼ1世紀後の昭和45年(1970年)に人口100万人を突破、その2年後には冬季五輪札幌大会が開催され、市制100年を迎えた令和4年(2022年)には世帯数98万、人口197万人にまで発展してきました。横浜市、大阪市、名古屋市に次ぐ第4位(東京都区部を除く)の大都市です。

面積は創建時の5km²から周辺町村との合併などを経て現在は1,121 km²へと拡大しています。市の中心部は計画的に作られ、東西南北に基盤の目状に道路が伸びる解放感ある我が国では珍しい街並みを形成しています。

さて、駐車場業を取り巻く環境はここ札幌でも大きく変化しており、何とんでも車両の急増による交通事情の変化です。札幌市の「札幌の都市交通データブック2021」(令和4年3月発行)によると、札幌市における車両保有台数(三輪以上)は、

昭和45年(1975年)時点で 13.2万台、総人口101万人に対し普及率 13.11%

令和 3年(2021年)時点で 99.7万台、総人口197万人に対し普及率 50.57%

と、人口増に伴って車両の絶対数が急激に増加し、国道を始め主要な車道の拡幅や延長等の整備も進んではいるものの、市内の幹線道路の交通量は年々増加の一途。冬期間は除雪によって車線が減少してしまうこともあり、特に都心部での渋滞が問題化しているのが現状です。

札幌市では昭和40年(1965年)に「札幌市建築物における駐車施設の附置等に関する条例」を制定し、都心部のオフィスビル等の一定規模を超える建築物に対して駐車施設の附置を義務化、駐車施設の供給量を増やして道路交通の円滑化を目指してきました。その後、半世紀を経て、都心部の駐車場利用状況にも変化が顕著となり、平成31年(2019年)より都心部での設置義務を緩和し、新たなまちづくりに向けて再開発の促進へと転換しました。現在、過度な駐車場整備を誘発しないこと、公共交通と自動車利用のバランスを考えながら駐車場の集約化や既存駐車場の有効活用等を図ることが政策課題となっており、我々駐車場事業者もこの方向に沿って事業展開が求められています。

また、都心部の問題としてはJR札幌駅前通地区における再開発の動きが加速し、結果として駐車場の閉鎖という状況が垣間見えることです。2030年の冬季五輪誘致(2回目開催)や北海道新幹線札幌延伸というビッグプロジェクトを控え、この駅前通地区は「都心強化先導エリア」としてビジネス・都市観光機能の集積、成熟都市札幌のショーケースとしての役割が求められており、この地区における駐車場の在り方が大きく変容しつつあるように思います。

加えて、都心部における「地下歩行空間」による人流の変化という点が挙げられます。平成23年(2011年)にJR札幌駅と大通地区との間に開通した札幌駅前通地下歩行空間はJR札幌駅とすすきの周辺を結び、特に冬期間の人流を地上から地下へとシフトさせ、人と車を分離する効果の半面、地上の駐車場利用の減少をも齎しました。札幌市では2030年度の北海道新幹線札幌延伸を見据えて、更に同様の2本目の新地下歩道も検討しており、構想が実現すれば都心部での駐車場の展開に大きく影響してくるものと考えられます。

最後に、コインパーキングの台頭です。コインパーキングは遊休地の活用や24時間稼働といった点が土地オーナーやユーザーのニーズを捉え、札幌の全域で拡大展開されています。地元駐車場業者にとっても市場の変化に適応し競争力を維持するため、参考とすべき点多々ある

ように思います。

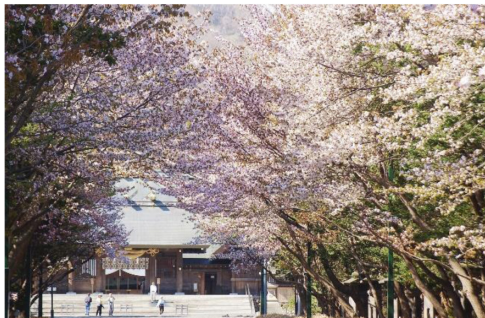
▶観光都市 札幌の魅力

札幌は、明治維新前後から本州のさまざまな地域からさまざまな人々が開拓者として入植し、現在の札幌の基礎が形作られ、その後、クラーク博士らによる海外の農業技術がもたらされるなど、北海道が我が国の食糧供給基地として貢献する中心地として発展してきました。

さまざまな魅力に溢れる札幌、そして北海道ですが、やはり観光と食(グルメ)でしょう。

札幌は北緯43度に位置し、年間雪日数120日と雪の多い北国ではありますが、どの季節も美しく彩られる街です。冬が長い分、短い春、夏、秋がとても印象深く、人々を癒してくれます。因みに札幌の気候は「亜寒帯湿潤気候」とのこと。

春には本州で葉桜となるGWの頃、ここ北海道ではようやく桜の見頃を迎えます。札幌の中心にある北海道神宮の桜はエゾヤマザクラがメインで、他にソメイヨシノ、ヤエザクラ、シダレザクラ、そして珍しいチシマザクラも混在しています。例年4月下旬に開花し、4月下旬～5月上旬には満開となります。桜前線を追いかけて春最後のこの時期に札幌のサクラを一度楽しんでみていただきたい。

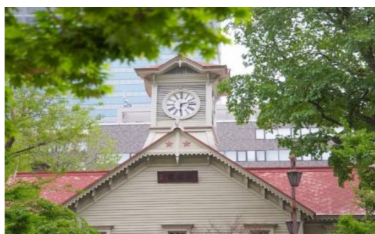


北海道神宮境内を彩る満開の桜



色鮮やかな花々と旧道庁赤レンガ庁舎

夏は北海道そのものが日本の一大避暑地でもあり、冷涼な気候を求めてさまざまなスポットに観光客が訪れます。当協会の隣には日本最古の時計塔である札幌市時計台があり、観光客にとっては被写体の定番。また、郊外に足を伸ばせば小樽や富良野、美瑛町などまさに北海道らしい風景に出会えること請け合いです。



最古の時計塔 札幌市時計台



蝦夷富士 羊蹄山



美瑛町の「青い池」

秋になると冬の到来を前に駆け足で紅葉が色づきます。輝く黄金色と鮮やかな紅色が織りなす様は毎年のことながら見事の一言に尽きます。海外観光客、特に一年中温暖な亜熱帯地域から来札された人々(海外実習生なども)にとっては、紅葉から落葉、そして一面の銀世界へと変わる風景はまさしく夢の世界であるらしく、季節の移ろいの素晴らしさを感じます。ちなみに沖縄も紅葉の現象がないとか。地元の天気予報士によれば、紅葉の見頃の時期はここ50年間で半月ほども遅れているとのこと。これも地球温暖化の現象の一つでしょうか。

冬は言わずと知れた雪と水の白銀の世界。皆さんご存じのニセコは世界屈指の上質なパウダースノウでインバウンドが集まるスポットに。外国を思い起こさせるような高級別荘が広がるリゾート地となっています。



金葉祭の北大キャンパス



幻想的な冬の小樽運河



ニセコのパウダースノウ

次は、食(グルメ)をご紹介します。札幌といえばラーメン、スープカレーにジンギスカンでしょうが、それも北海道の素材の素晴らしさゆえです。北海道は広く海洋に囲まれ、格好の漁場が揃っているため、豊かな水産物に恵まれています。また、広大な土地は寒冷地でありながら一年を通して気温差が50℃(35℃から-15℃まで)と農産物の生育に適した気候でもあります。そこに年間5メートルを超す降雪によって美味しい水が供給されて農産物の宝庫となるのです。大手百貨店では北海道物産展が催されると常に大入り盛況となるのも頷けるところ。では、数多の日本一と自慢できるものの中から独断と偏見でイチ推しを以下にご紹介します。

【カニ、鮭、ホタテ…】

北海道と言えば海の幸。その王様は何といっても毛ガニ。北海道観光には必須の食材で、昔から誰もが黙食していました。その他にも鮭、秋刀魚、ホッケ、ホタテ、ウニ等々枚挙に暇なし。北海道ではいつでも旬の海産物が美味しく頂けるますが、寒い季節に滋味深い汁で冷えた体を温めるのは冬の北海道ならではの楽しみ方です。

ただ心配な点もあります。気候変動による海水温の変化等で漁獲量の急変が相次いでいること。鮭やサンマ、イカが記録的な不良になる一方、フグの水揚げが全国一位になったとか…。将来はいつでも海の幸を堪能できるとは限らないかもしれません。



【特A揃いのお米】

北海道は今やお米の一大生産地であるばかりでなく、最高品質の生産地でもあります。（一財）日本穀物検定協会が毎年実施する食味ランキングで最上位の特Aにランクされる銘柄が栽培されるようになりました。「ななつぼし」（2001年誕生、直近12年連続特A）、「ゆめぴりか」（2008年誕生、直近11年連続特A）、「ふっくりんこ」（2003年誕生、直近3年連続、通算5年特A）と、同じ雪国の新潟県（コシヒカリ）や山形県（つや姫）にも十分肩を並べるほどの品質を誇ります。昔は寒冷地で稲作には不毛の地とも言われ、道産米は不味い米の代表格のように低評価を受けていましたが、品質改良のために試行錯誤を繰り返して1988年に「きらら397」が生まれるに至って一気に品質向上し、良質米を栽培できるようになりました。札幌農学校のクラーク博士の遺伝子は現在まで受け継がれているのでしょう。

【生産量日本一の蕎麦】

北海道はそばの生産量日本一。中でも作付面積日本一の幌加内町（ほろかないちょう）の「幌加内そば」は、豊かな風味と喉ごしで本州各地のそばの名産地にも勝るブランドとなっています。夏には薄紫色のそばの花が満開となって辺り一面に咲き乱れ、「幌加内では2度雪が降る」と言われるそう。北海道の土と水と空気が育んだ素敵な風味を是非一度ご賞味あれ。



幌加内町 満開のそばの花



風味豊かな幌加内そば

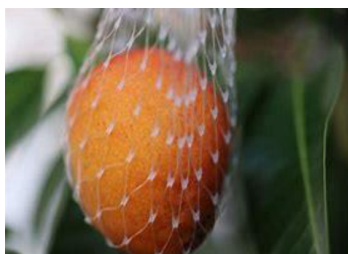
【メロンにマンゴーも】

果実では5月から10月が旬のメロンが一押し。三大メロンと呼ばれる夕張メロン、富良野メロン、らいでんメロンは北海道を代表するブランドで、国内外でも高級果実として高い評価を得ています。糖度が平均15度と強く、滑らかな食感で食べ応えもあり、またメロンを素材としたスイーツもお薦めです。その他にも月形メロンや三笠メロンなどもあり、食べ比べてみてはいかがでしょうか。

そして、真冬の北海道で南国フルーツの「マンゴー」が栽培されていることはご存知でしょうか。もちろんビニールハウスの中ではありますが、温泉熱や雪といった自然エネルギーを利用した通年の温度管理で冬に出荷することで、夏の宮崎県産とはまた異なる時期に高級果実として贈答用などに好評価を得ています。大切な人へのサプライズにいかがですか。



果肉豊かな夕張メロン



北海道の冬マンゴー



札幌は住みたい街ランキングでは常に1位、2位を争う程の人気のある街です。2030年度には北海道新幹線が札幌まで延伸されます。いつでも札幌まで足を延ばせて、気軽に北海道を堪能できる日が来ることでしょう。

▶札幌駐車協会の将来

札幌駐車協会は、産声をあげてから55年が経ちました。その間、札幌市の発展に伴って交通量が急増する中、駐車場事業の発展に尽力してまいりました。会長就任後早や10年が経過しましたが、常に新しい難題に直面しては四苦八苦しながらもその都度、関係各位のご支援により今日まで至ることができました。誌面をお借りして関係各位にあらためて御礼申し上げます。

現在、既に3年を過ぎてもなおまだコロナ禍のマイナスの影響から脱け切れずにおりますが、昨年の観光需要などを見るにつけ、地元北海道そして札幌のポテンシャルの大きさにあらためて気づかされるところ大です。このような地元の魅力が人的交流を再び活発化させ、ひいては駐車場業の活性化に、そして札幌駐車協会の発展に繋がることを期待しているところです。

次に寄稿するときはどのような風景になっているのでしょうか。都心部の駐車場は超高層タワーパーキングが建ち並び、ドローン型空飛ぶ自動車用の駐車(機?)場が大盛況に…。空想を膨らませつつ私たちの駐車場業が社会の進化と共に夢と可能性に溢れるビジネスであり続けて欲しいと願うばかりです。

以上